

平成 27 年度

全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

千葉市教育委員会

千葉市の児童生徒の調査結果について公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めてまいります。

1 調査の概要

- (1) 調査実施日 平成 27 年 4 月 21 日（火）
 (2) 調査対象 小学校 6 年生、中学校 3 年生
 (3) 調査内容 国 語 A 問題（主として知識）、B 問題（主として活用）
 算数・数学 A 問題（主として知識）、B 問題（主として活用）
 理 科 「知識」「活用」に関する問題を合わせて出題
 質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習習慣、生活習慣等）

2 教科別結果概要

（平成 27 年度と悉皆調査実施年度との比較）

（1）全国・千葉県・大都市の平均正答率（%）と千葉市全体の結果（ここでの全国は、公立のみを示す）

【資料 1】問題別平均正答率一覧（%）[全国・千葉県・大都市・千葉市]＜平成 19～27 年度＞

			「知識」に関するA問題					「活用」に関するB問題				
			全国 平均 正答率	千葉県 平均 正答率	※大都市 平均 正答率	千葉市 平均 正答率	全国平均 との 比較	全国 平均 正答率	千葉県 平均 正答率	※大都市 平均 正答率	千葉市 平均 正答率	全国平均 との 比較
小学校	国語	平成27	70.0	71.5	70.3	72.8	+ 2.8	65.4	64.5	65.9	65.6	+ 0.2
		平成26	72.9	75.8	73.3	77.1	+4. 2	55.5	55.5	56.3	57.3	+1. 8
		平成25	62.7	61.9	63.4	64.2	+1. 5	49.4	50.1	50.9	52.6	+3. 2
		平成21	69.9	71	70.5	72.8	+2. 9	50.5	51.3	52.1	52.1	+1. 6
		平成20	65.4	66.7	66.5	69.6	+4. 2	50.5	51.4	52.1	54.1	+3. 6
		平成19	81.7	82.2	82.2	82.8	+1. 1	62	64	64	66	+4. 0
	算数	平成27	75.2	74.7	75.7	76.4	+ 1.2	45.0	45.1	46.4	47.5	+ 2.5
		平成26	78.1	78.2	78.3	79.8	+1. 7	58.2	58.8	59.6	60.6	+2. 4
		平成25	77.2	77.1	77.5	78.5	+1. 3	58.4	59.4	59.8	62.3	+3. 9
		平成21	78.7	79.8	79.3	81.6	+2. 9	54.8	56.3	56.7	58.6	+3. 8
		平成20	72.2	72.8	72.8	75	+2. 8	51.6	53.2	53.4	55.7	+4. 1
		平成19	82.1	83.2	82.6	84.7	+2. 6	63.6	65	64.3	67.1	+3. 5
	理科	平成27	61.3	62.3	—	63.8	+ 2.5	60.5	61.9	—	62.9	+ 2.4
		※平成24	69.1	70.8	—	74.3	+5. 2	57.6	59.2	—	62.9	+5. 3
中学校	国語	平成27	75.8	76.0	76.4	77.6	+ 1.8	65.8	65.7	66.3	67.2	+ 1.4
		平成26	79.4	79.8	79.5	80.7	+1. 3	51	51.7	51.5	53	+2. 0
		平成25	76.4	76.2	76.5	77.7	+1. 3	67.4	68.1	68	70.7	+3. 3
		平成21	77	76.8	76.7	78.5	+1. 5	74.5	74.6	73.9	76.7	+2. 2
		平成20	73.8	72.8	73.6	74.3	+0. 7	60.8	61.8	61.3	63.2	+2. 4
		平成19	81.6	81.6	81.6	82.7	+1. 1	72	72	72	74	+2. 0
	数学	平成27	64.4	63.4	65.3	65.5	+ 1.1	41.6	41.6	43.0	44.9	+ 3.3
		平成26	67.4	66.7	67.7	68.3	+0. 9	59.8	60.1	60.9	61.6	+1. 8
		平成25	63.7	63.2	64.2	65.7	+2. 0	41.5	41.5	42.5	45	+3. 5
		平成21	62.7	61.6	63.1	64.1	+1. 4	56.9	56.7	57.3	59.8	+2. 9
		平成20	63.1	61.7	63.5	63.4	+0. 3	49.2	49.1	49.6	51.3	+2. 1
		平成19	71.9	70	71.9	72.2	+0. 3	60.6	60	60.6	62.9	+2. 3
	理科	平成27	63.8	62.8	—	64.5	+ 0.7	48.8	47.8	—	50.6	+ 1.8
		※平成24	56.1	53.8	—	54.5	—1. 6	47.8	47.8	—	49.1	+1. 3

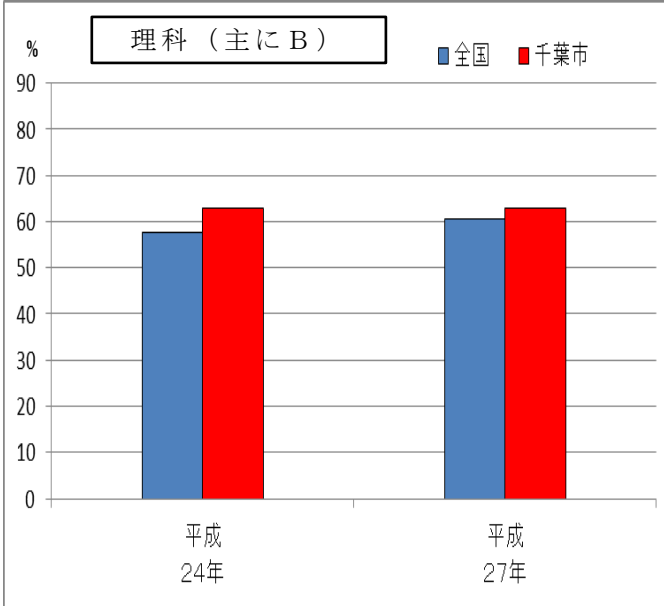
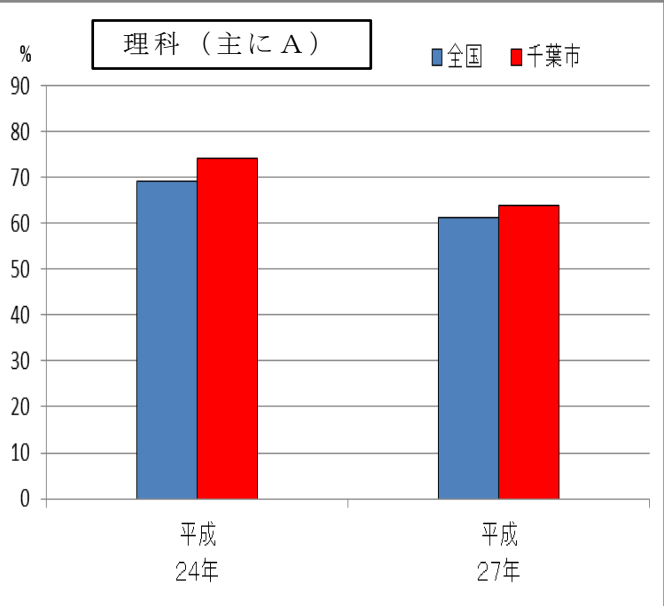
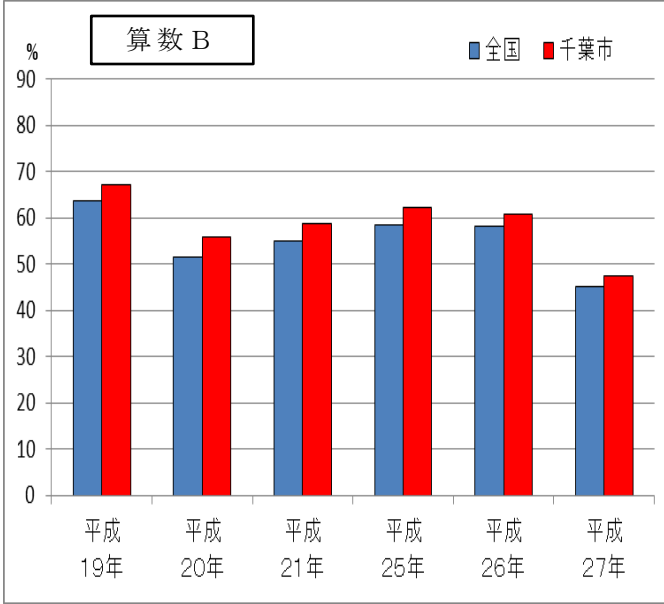
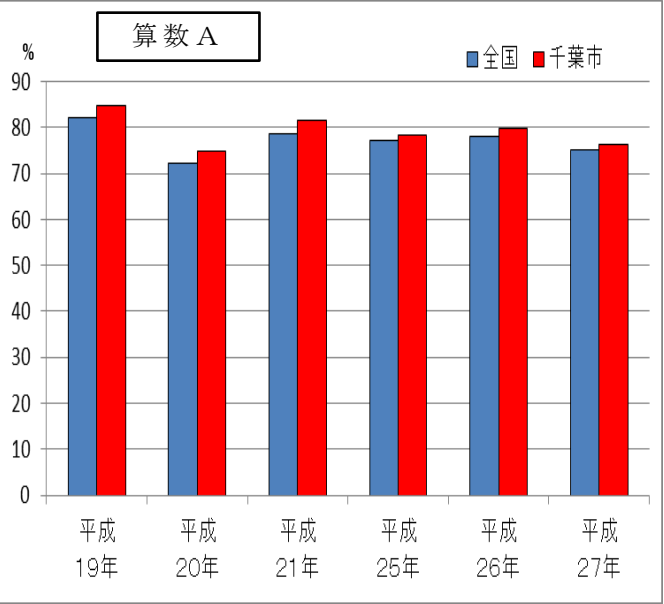
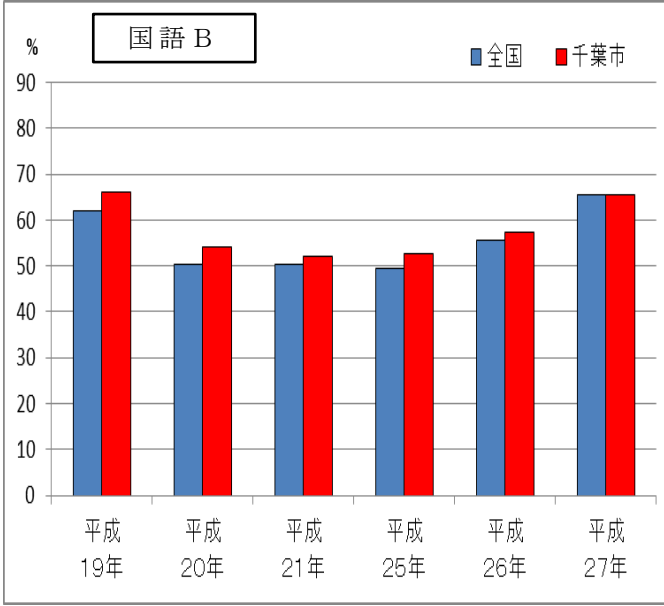
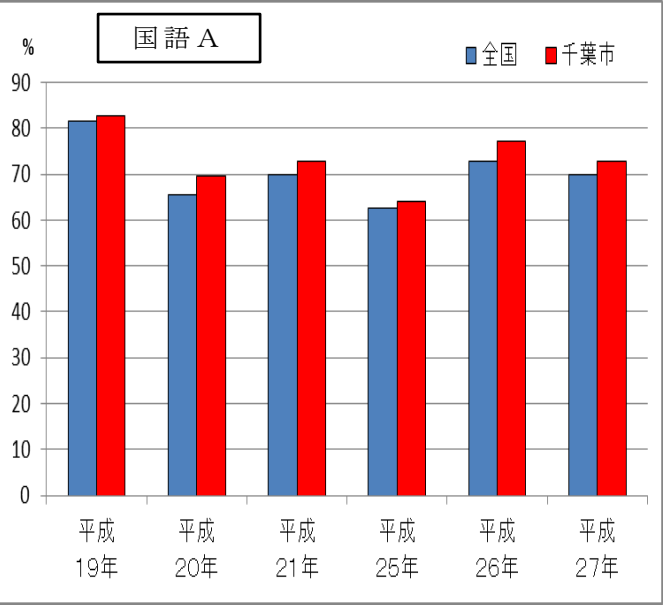
※「大都市」とは政令指定都市と東京23区。

※平成22・24年度は抽出校の調査のため経年変化には加えていない（平成23年度は東日本大震災のため未実施）。

※理科は平成24年度に抽出校で調査している（抽出率は約30%）。参考として掲載。

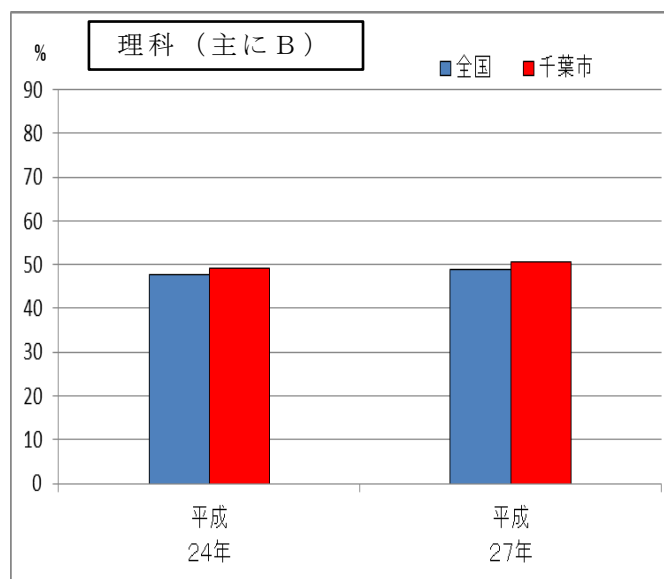
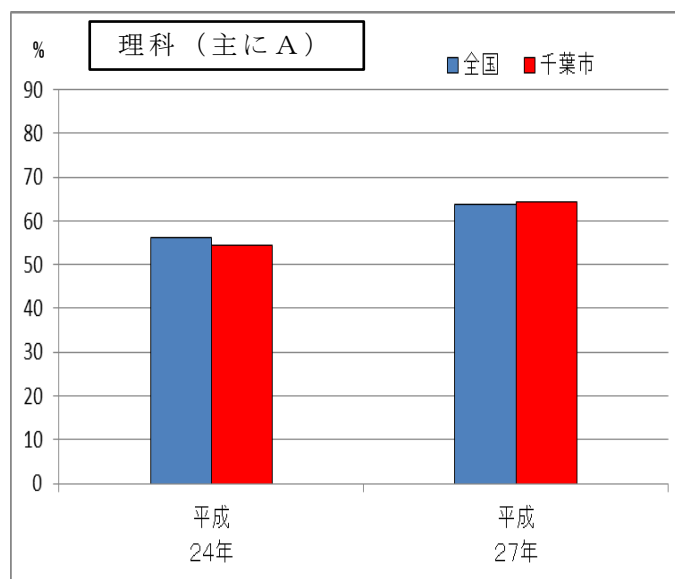
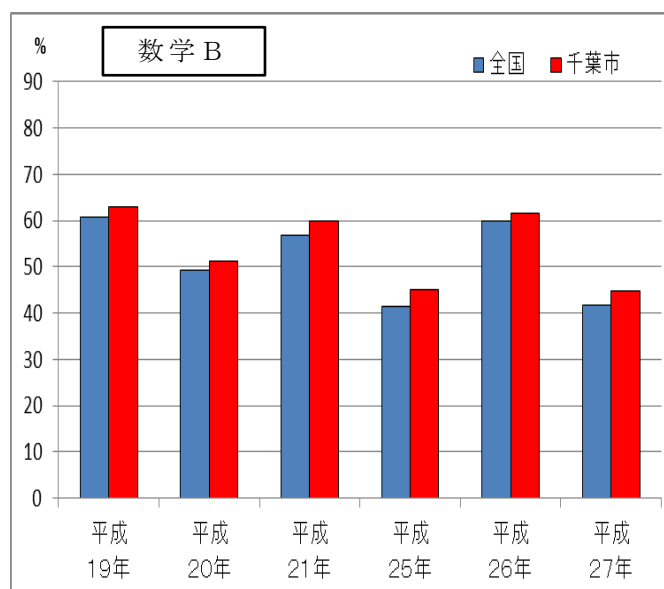
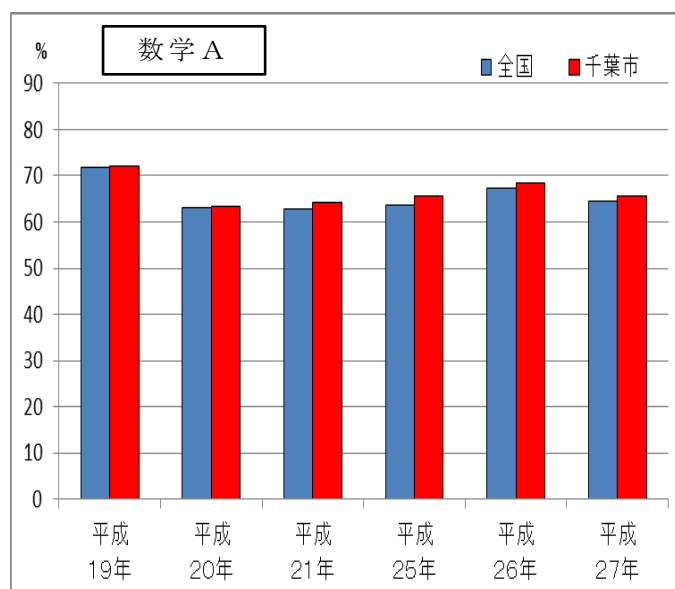
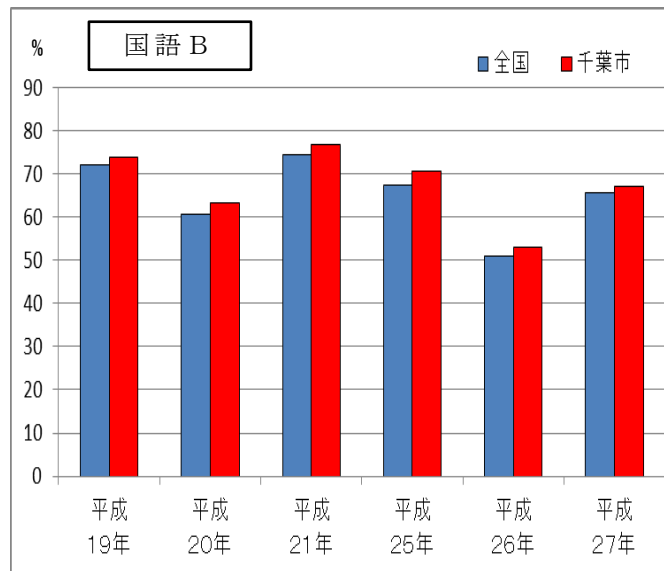
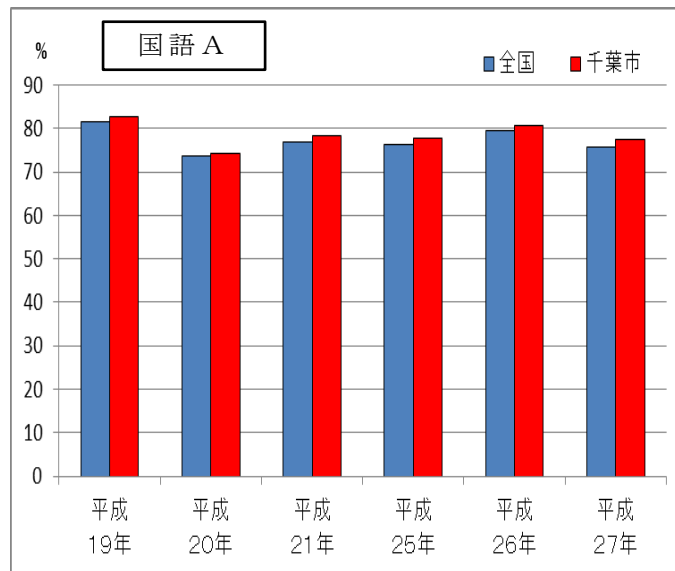
【資料 2】教科別経年比較グラフ〔全国・千葉市〕＜平成 19～27 年度＞

ア 小学校（横軸：調査実施年度 縦軸：平均正答率）



※理科は、小学校、中学校ともに平成 24 年度、抽出校調査のため、参考として掲載。
 理科は A 問題、B 問題に分かれていないが、主に A（知識）、主に B（活用）と分けて掲載。

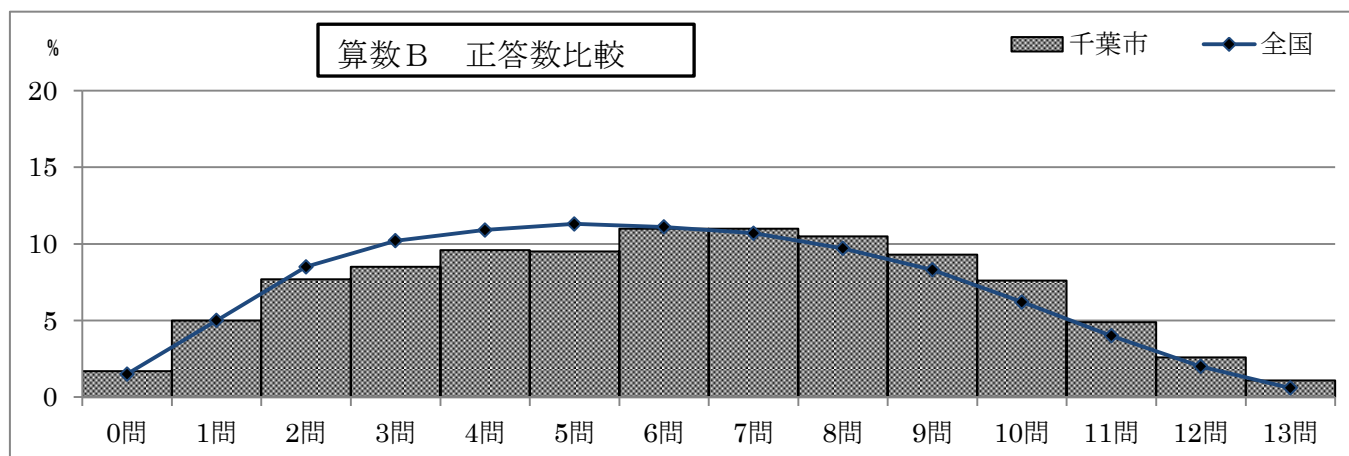
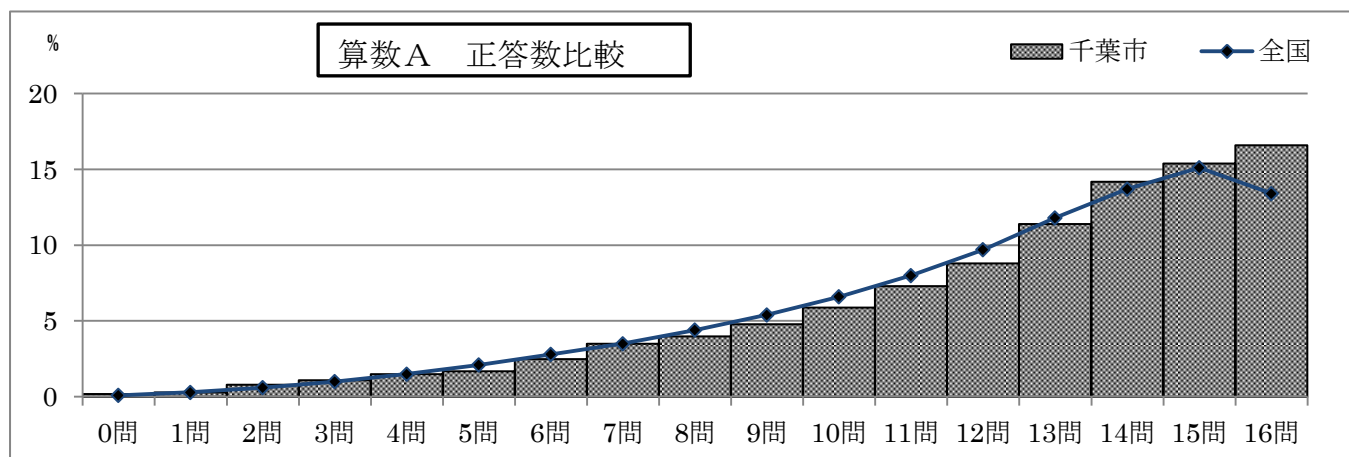
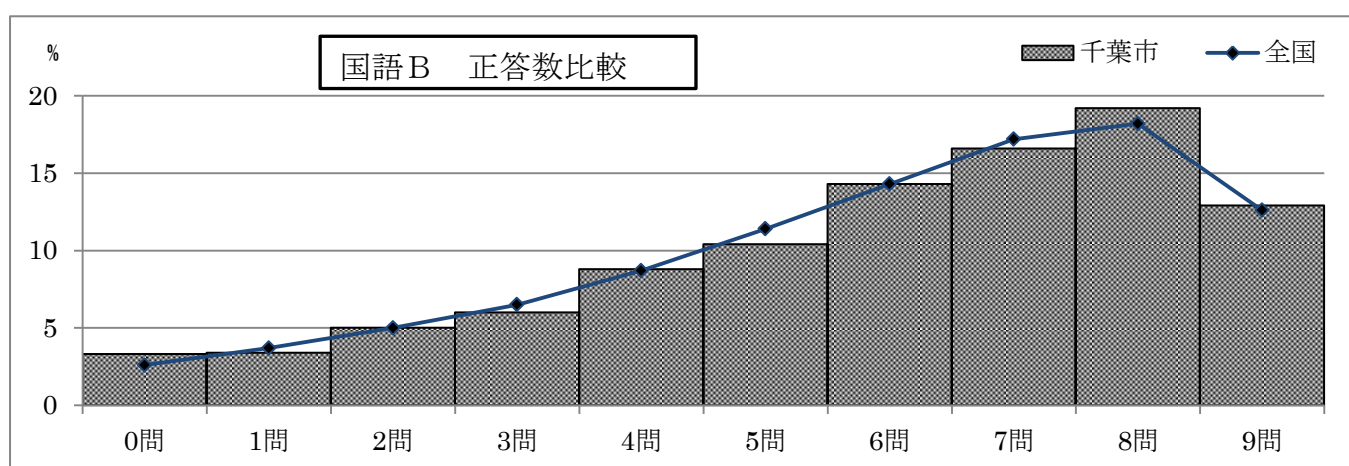
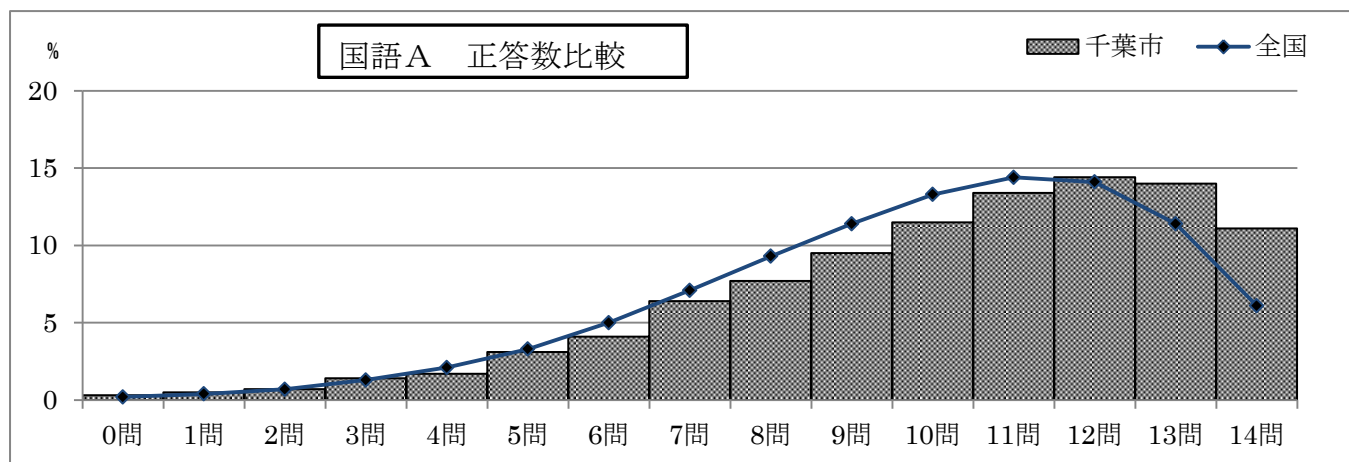
イ 中学校（横軸：調査実施年度 縦軸：平均正答率）

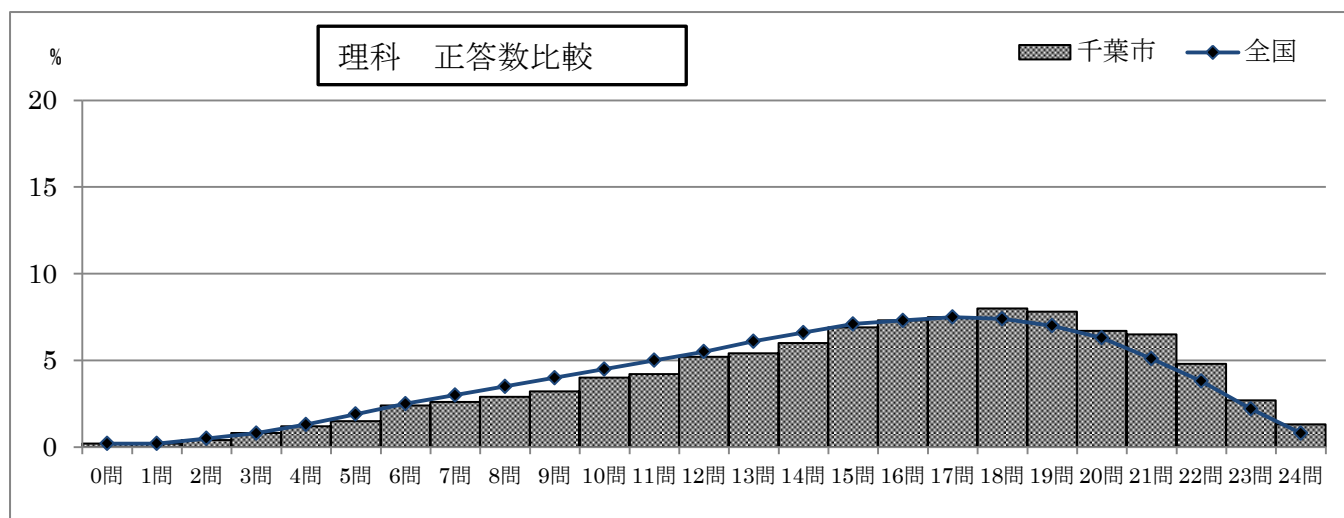


- ① 千葉市の小学校 6 年生、中学校 3 年生は、国語、算数・数学、理科、いずれの教科・問題区分（A・B 問題）においても、全国・千葉県の平均正答率を上回る。
- ② 千葉市の小学校 6 年生の算数、中学校 3 年生の数学は、A 問題（知識）より、B 問題の方が、全国の平均正答率を大きく上回る。
- ③ 平成 19 年度からの悉皆調査 5 回との経年比較から判断しても、本市の結果は概ね良好の状態を維持しているといえる。

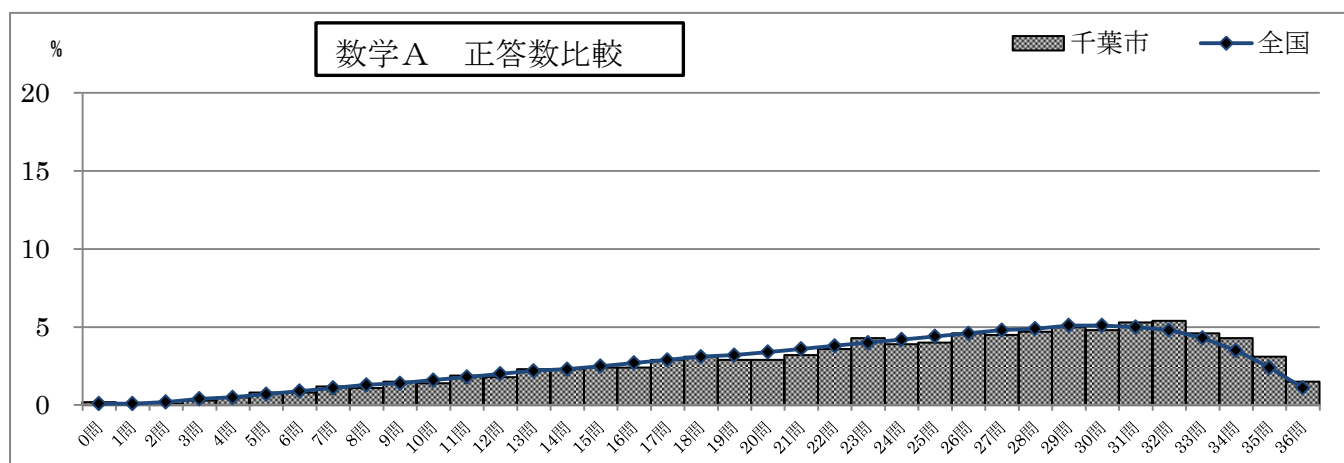
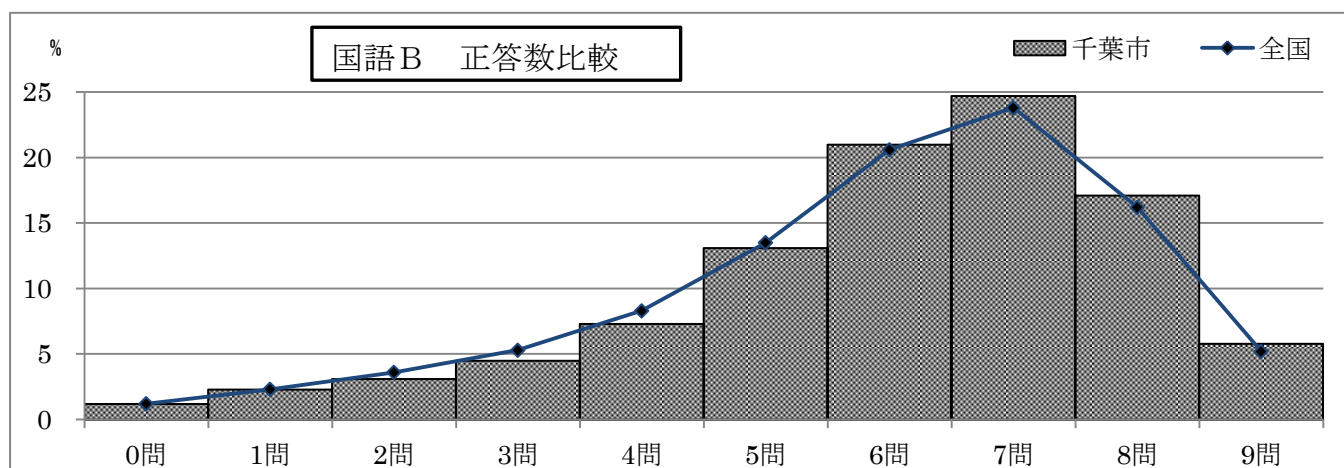
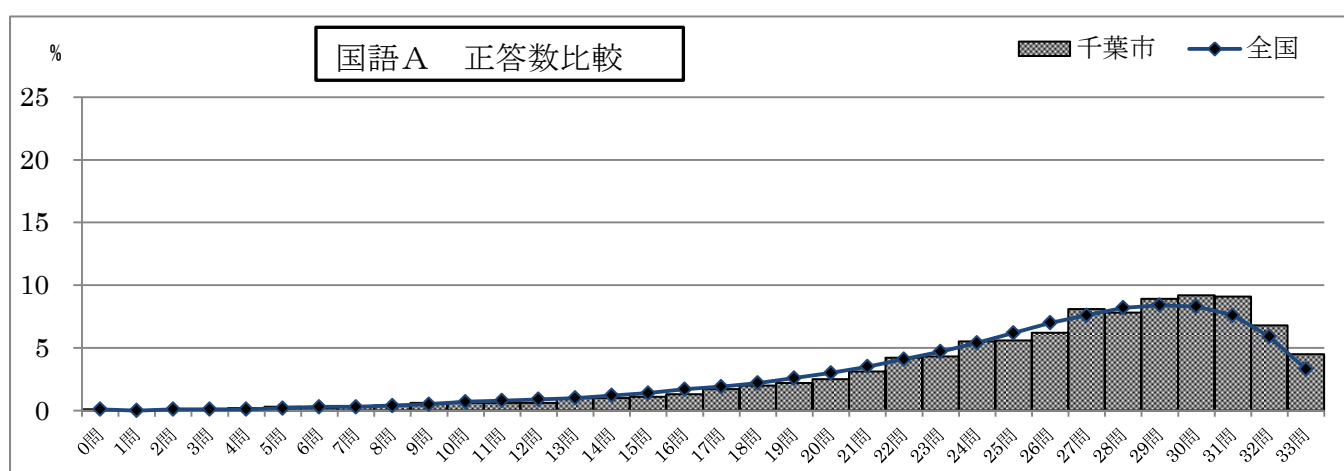
(2) 正答数の分布（全国の比較）

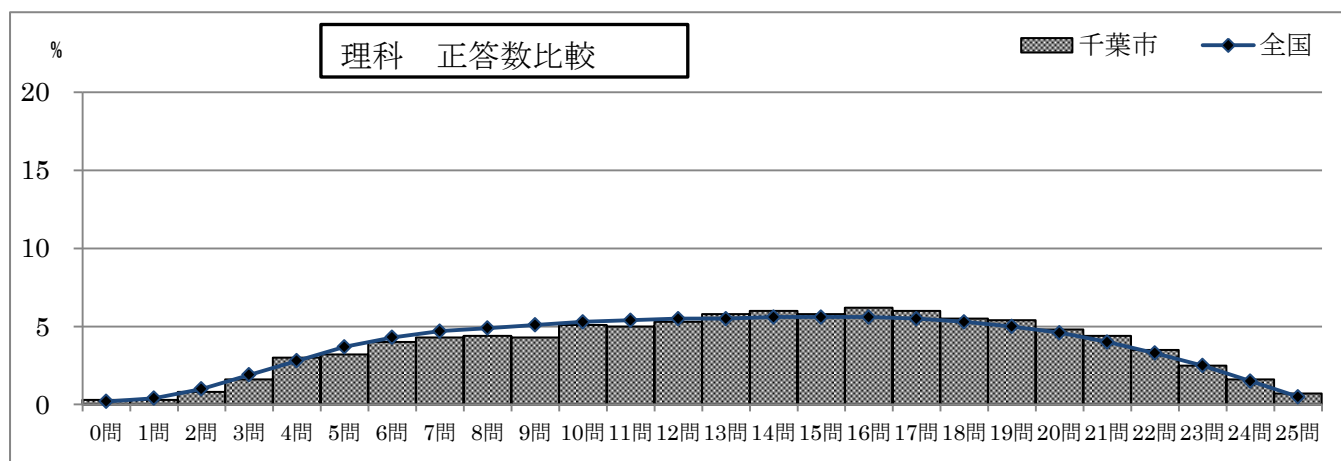
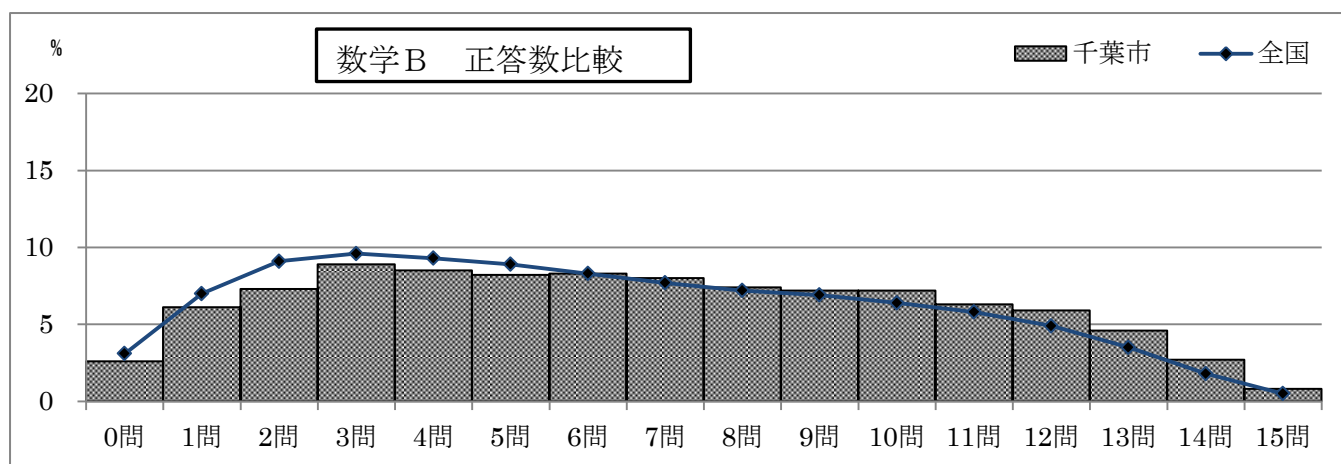
【資料3】正答数分布（横軸：正答数、縦軸：人数の割合）[全国・千葉市] <平成27年度>
ア 小学校





イ 中学校





① 小学校

< A 問題 >

- ・国語・算数ともに、千葉市と全国を比較すると、中間層（やや正答数が多い）の児童の割合が低く、正答数の多い児童の割合が高く、平均正答率を上げている。

< B 問題 >

- ・国語・算数ともに、千葉市と全国を比較すると、中間層（国語はやや正答数が少ない）の児童の割合が低く、正答数の多い児童の割合が高く、平均正答率を上げている。
- ・A問題と比較すると、千葉市も全国と同様に、正答数の多い児童の割合が低くなり、正答数の少ない児童と中間層の児童の割合が高くなっている傾向がある。特に、算数では正答数の中間層の児童の割合が高く（正答数の最頻値は13問中6問）、さらに山を右寄りに改善することが課題である。

< 理科 >

- ・千葉市と全国を比較すると、中間層の児童の割合が低く、正答数の多い児童の割合が高く、平均正答率を上げている。

② 中学校

< A 問題 >

- ・国語・数学ともに、千葉市と全国を比較すると、正答数の少ない生徒の割合はほぼ同じ、中間層の生徒の割合が低く、正答数の多い生徒の割合が高く、平均正答率を上げている。

< B 問題 >

- ・国語・数学ともに、千葉市と全国を比較すると、中間層の生徒の割合が低く、正答数の多い生徒の割合が高く、平均正答率を上げている。
- ・A問題と比較すると、千葉市も全国と同様に、正答数の多い生徒の割合が低くなり、正答数の少ない生徒と中間層の生徒の割合が高くなっている傾向がある。特に、数学では中間層（やや正答数の少ない）の生徒の割合が高く（正答数の最頻値は15問中3問）、さらに山を右寄りに改善することが課題である。

< 理科 >

- ・千葉市と全国を比較すると、中間層（やや正答数が少ない）の生徒の割合が低く、中間層（やや正答数が多い）の生徒の割合が高く、平均正答率を上げている。

(3) 市内学校 A・B 問題平均正答率の相関関係＜平成 26・27 年度の比較＞

【資料 4】市内学校 A・B 問題平均正答率の相関分布図

第 2 群	第 1 群
第 4 群	第 3 群

[中心座標は A・B 問題の全国平均正答率を示す]

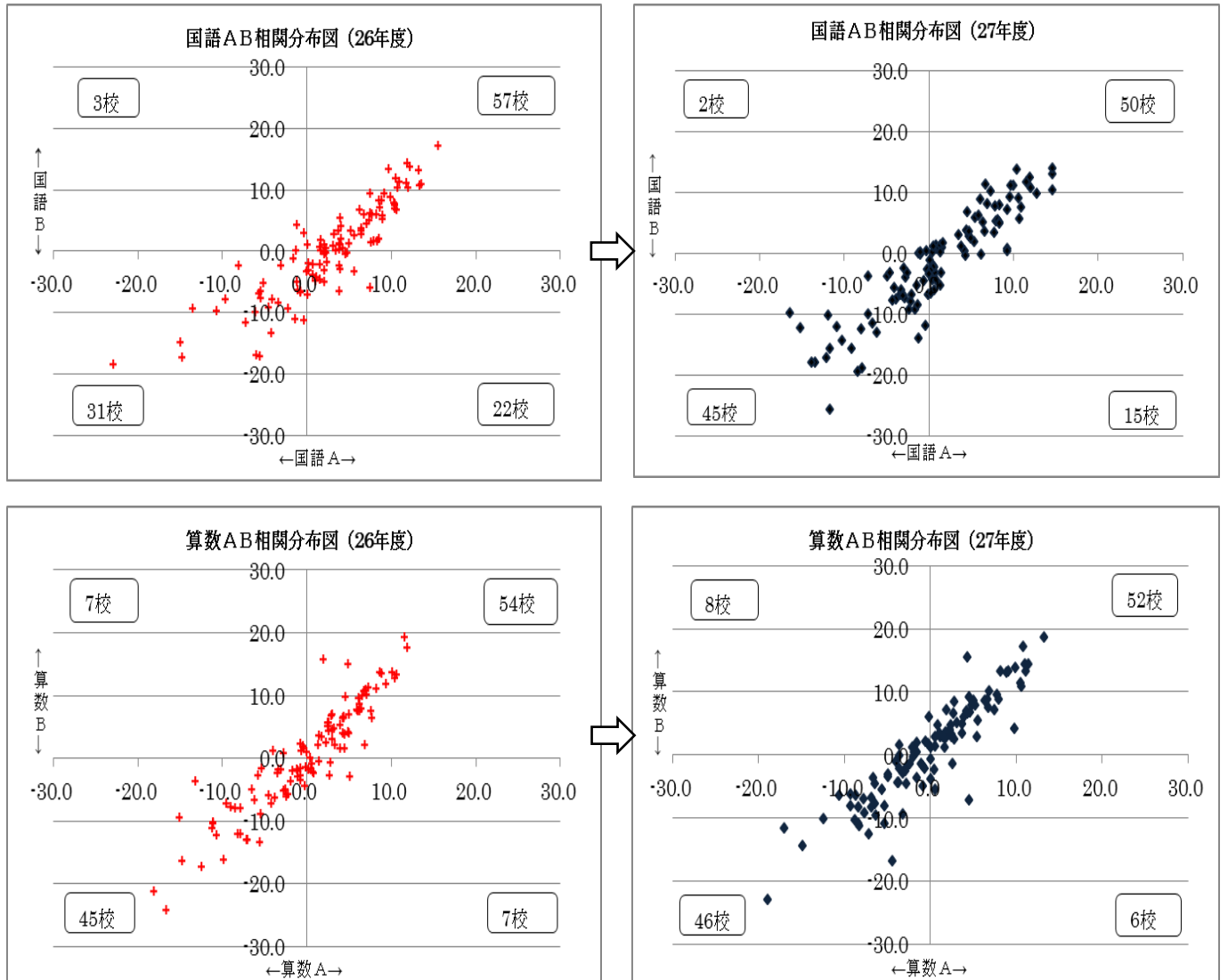
第 1 群：A・B 問題ともに全国平均正答率を上回った学校

第 2 群：A 問題は全国平均正答率を下回ったが、B 問題では全国平均正答率を上回った学校

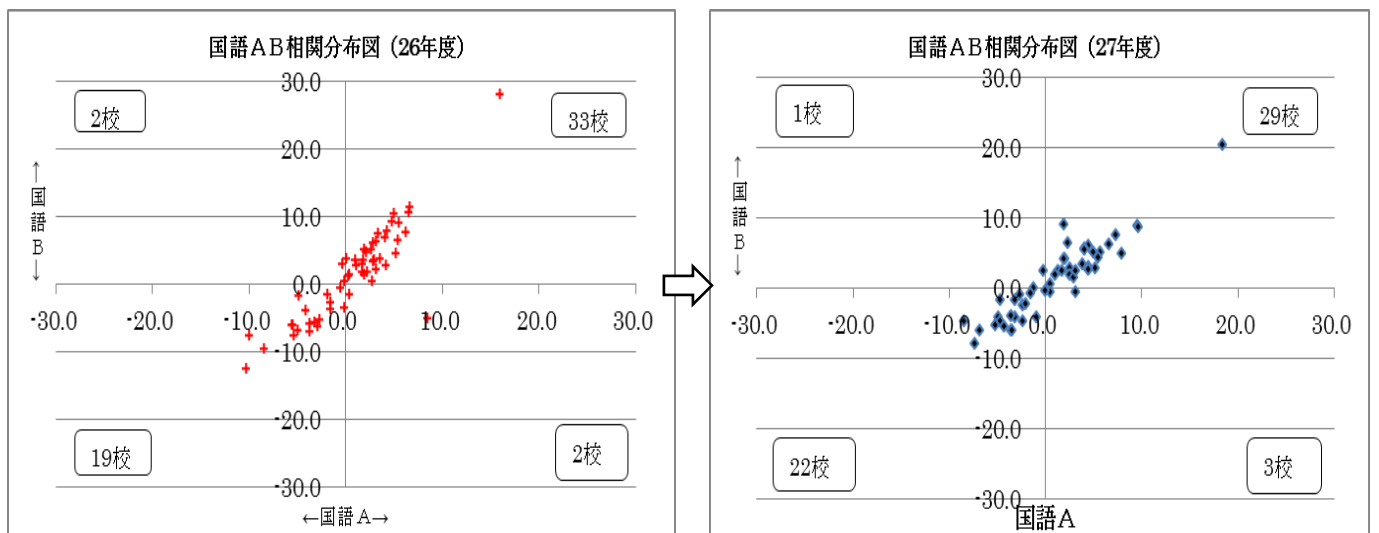
第 3 群：A 問題は全国平均正答率を上回ったが、B 問題では全国平均正答率を下回った学校

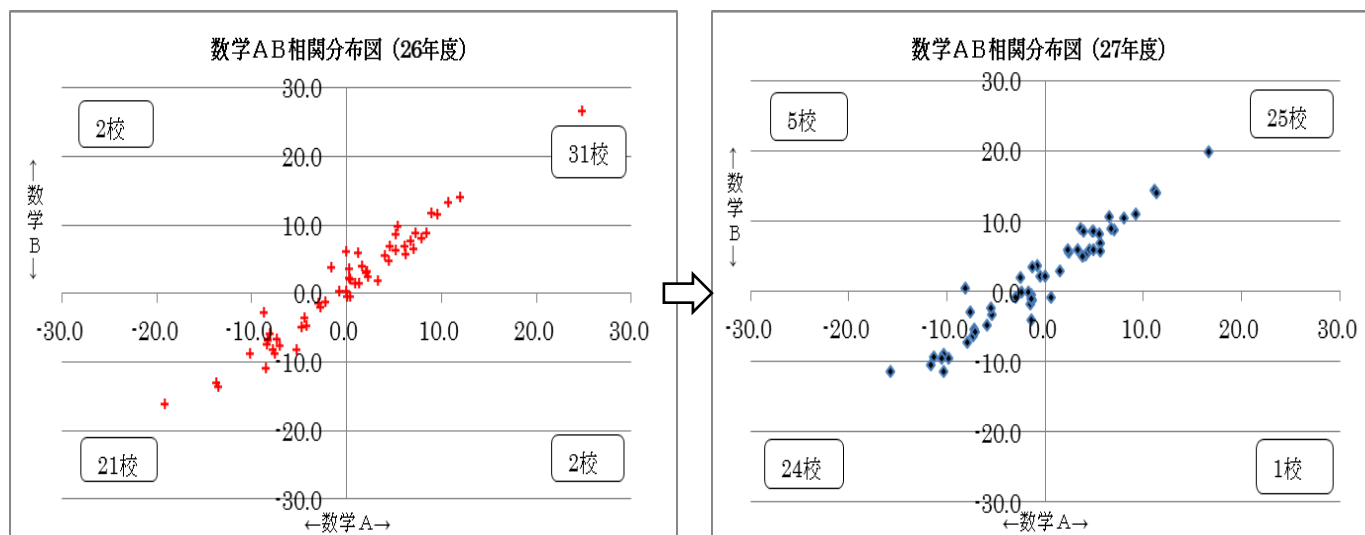
第 4 群：A・B 問題ともに全国平均正答率を下回った学校

ア 小学校



イ 中学校





① 小学校

- ・各学校におけるA・B問題の平均正答率の分布から、基礎的な知識の定着と活用力との関係には相関関係があることが分かる。
- ・平成27年度は前年度と比較すると、算数は大きな変化はないが、国語はA問題にも課題がある学校が増え、第3群（A問題は全国平均正答率を上回るが、B問題は全国平均正答率を下回る）の学校が減り、第4群（A・B問題ともに全国平均正答率を下回る）の学校が増えている。

② 中学校

- ・小学校同様、各学校における平均正答率の分布から、基礎的な知識の定着と活用力との関係に相関関係があることが分かる。
- ・国語に比べて数学は各学校の学力差が大きいことが分かる。
- ・小・中学校ともに、A問題とB問題の平均正答率の分布には相関関係が存在することから、各学校においては言語活動の充実を図り、活用力の育成を図るとともに基礎的な知識の定着を図ることが大切である。

(4) 全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移＜平成 26・27 年度の比較＞

【資料 5】全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移表

出題される問題が毎年異なり、調査母体の児童生徒が異なること、測定できるのは学力の特定の一部であることから、今後数年の推移を見守っていく必要がある。

26 年度の全国と各学校の平均正答率の差と 27 年度の全国と各学校の平均正答率の差を比較

推移数値 〇:全国平均との差が大きくなり向上 △:全国平均との差が向上 空欄:全国平均との差が大きな変化がない ↓:全国平均との差が低下

ア 小学校 (条件: 該当学年調査実施児童数が 40 人以下の学校については調査母体による影響が顕著となるため、また新設校は経年比較できないため公表しない)

学校名	国語A	国語B	算数A	算数B
新宿	↓	↓	↓	
寒川	↓			↑
登戸	↓			
院内	↑			↑
蘇我	↑	↑		↑
都	↓	↓	↓	
都賀	↓			
検見川	↓	↓	↓	↓
稲毛	↓			
園生	↓	↓		↓
若松	↓			
大森	↓	↓	↓	↓
稲丘				
花園				↑
横橋	〇	↓		↑
幕張	↓	↓	↓	↓
長作	↓	↓		
生浜	〇	〇	〇	〇
菅田		↑	↑	
轟町				↑
鶴沢	↓		↑	↑
平山	↓	↓		↓
松ヶ丘	↓			↓
宮崎				↑
緑町	↑	↑	↑	↑
川戸	↓	↓	↓	↓
山王				↑
小中台				
大宮	↓		↑	↓
小倉				↑
千草台	↓	↓		↓
稲毛二	↑	↑		↑
あやめ台		〇	〇	〇
星久喜	↓	↓		
幕張東	↑		↑	
土気	↓	↓		↓
桜木			↑	↑
千城台西	↓			
宮野木				
生浜西		↑	↑	↑
こてはし台	↓	↓	↓	↓
さつきが丘東		↑		
北貝塚		↓	↓	

学校名	国語A	国語B	算数A	算数B
幕張西		↓		
草野		↓		
柏台			↓	↓
千城台東		↑		
小中台南	↓			↓
幸町三		↓		↑
高洲三	↓	↓	↓	↓
千草台東				
高浜一		↓	〇	〇
作新	↓	↓	↓	↓
みつわ台北			↑	〇
菅田東			↓	↓
千城台旭		〇		
柏井	〇	〇	↑	〇
みつわ台南				↓
若松台	↓	↑	↓	↓
幕張南		↑		
都賀の台		↓		↑
上の台			↑	↑
磯辺三	↑			
源	↑	〇	〇	〇
朝日ヶ丘	↓		↓	↓
生浜東		〇		↑
泉谷	↓	↓	↓	↓
土気南				↑
西の谷				
小谷				↑
大椎	↓	↓		
有吉			↓	
打瀬		↓		
金沢				
あすみが丘	↓	↓	↓	↓
扇田				
瑞穂				
海浜打瀬				↓
おゆみ野南				
美浜打瀬		↑	↑	↑
高洲		↓	↓	
真砂東	↓	↓	↓	↓
真砂西	↓			
高浜海浜				〇
磯辺				

イ 中学校 (条件: 該当学年調査実施生徒数が 80 人以下の学校については調査母体による影響が顕著となるため、また新設校は経年比較できないため公表しない)

学校名	国語A	国語B	数学A	数学B
加曽利	↑	↑	↑	〇
末広				
葛城		↓	↓	
椿森				
緑町	↑			
小中台			↓	
花園				
新宿	↓	↓	↓	↓
蘇我				
幕張		↓		
生浜	↓			
菅田		↑		〇
轟町		↓		
松ヶ丘	↓	↓		
稲毛		↓		
千城台西		↑		
星久喜	↑	↑	↑	↑
こてはし台			↑	↑
高洲一		↓		
草野	↓			
幕張西			↑	↑

学校名	国語A	国語B	数学A	数学B
都賀	↓	↓		
千城台南		↑		
みつわ台	↓	↓	↓	↓
緑が丘		↓		
天戸				
若松		↓		
高浜				
幸町二	↑			↑
山王		↓		
朝日ヶ丘	〇	〇	↑	〇
貝塚	↑	↑	↑	↑
泉谷		↑		↑
幕張本郷				↑
土気南		↓		
打瀬	↑		〇	〇
有吉	↑			
大椎			↑	↑
真砂				↑
おゆみ野南				
磯辺				

- ・小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに、平均正答率は全国平均正答率より上回っているものの、平成 26 年度の全国平均正答率との差に注目すると、小学校 6 年生国語 A・B、中学校 3 年生国語 B で低下している学校が多い。小学校 6 年生算数 B、中学校 3 年生数学 B で向上している学校が多い。

【資料 6】平均正答率の顕著な向上が見られた学校の取組事例＜平成 26・27 年度の経年推移の比較から＞

- ・顕著な向上が見られた学校では、以下のような取組が報告されている。

ア 小学校

蘇我	算数の少人数指導、理科専科の指導 朝自習の積み重ねの成果（読書、ドリル） 児童の意識（学校が楽しい・国語、算数、理科の学習の大切さを自覚）
生浜	「学習意欲」「学び合い」に視点をおいた取組 毎日の音読や暗唱 計画的に学習の成果を保護者に認めてもらう取組
鶴沢	算数の少人数指導によるきめ細やかな授業
緑町	読書習慣の定着 「家庭学習の手引き」の配布による学習習慣の定着 少人数指導 理科学習（授業・科学のひろば）の充実で培われた意欲、思考力の活用
稲毛二	朝のドリル学習 聞く姿勢の定着（ボランティアによる読み聞かせ） 少人数による伝え合う活動
あやめ台	基礎・基本を定着させる工夫（朝の時間を利用した個別支援） 家庭学習の手引きの活用 復習を重視した家庭学習
桜木	朝の時間の自分の力に合わせたプリント学習 発表の仕方の指導 ノート指導の充実（手本となる児童のノートを掲示）
生浜西	全国学力状況の結果の考察による職員の意識向上 板書やノート指導の工夫 少人数指導や学力向上サポーターと担任の連携 学校満足度調査による児童理解
高浜一	四則演算を中心としたプリント学習（チャレプertime） 全学級算数の研究授業実施
みつわ台北	前学年からの基礎・基本の定着の徹底 ドリルの専用ノートによる繰り返し学習 定着した計算力を基盤とした「活用」に関する問題への取組
柏井	視写を中心とした「すらすらタイム」により、書くことが楽しいという児童の増加 ノート指導を通した自分の考えを書く活動の充実
源	家庭学習（自主学習）の推進 算数のミニテストによる基礎学力の定着 落ち着いて学習ができる環境作り（基本的生活習慣の定着）
美浜打瀬	授業力の向上のための研究（研修）の充実 学び方を学ぶ時間の設定 「話し方・聞き方」「ノートの書き方」を徹底する掲示物の活用

イ 中学校

加曽利	「文字を読む」「文章を理解する」といった読解力向上に向けての朝読書の活用
星久喜	学校全体として授業の始めに「本時の目標」を明確に提示する取組 学校生活態度の安定 家庭の協力
こてはし台	創作活動や視覚化した導入により学習意欲の喚起 学習目標を明確にした授業実践
幕張西	授業力の向上を掲げた教職員と生徒の授業への取組（落ち着いた学習態度） 家庭の協力
朝日ヶ丘	研究授業を通した授業力向上への取組 小中の教員の相互授業参観や合同研修 授業のルールの確認と共通指導（授業規律の確立） 全校体制の学習相談の実施
貝塚	基礎・基本の定着を図る授業の実践
打瀬	研究授業を通した授業力向上を目指した取組 家庭学習への熱心な取組 学校教育への保護者の関心の高さと生活習慣の定着 学校生活満足度の高さ
大椎	定期テスト前の「学習相談」の充実 夏季休業中の「学習講座」（補充学習）

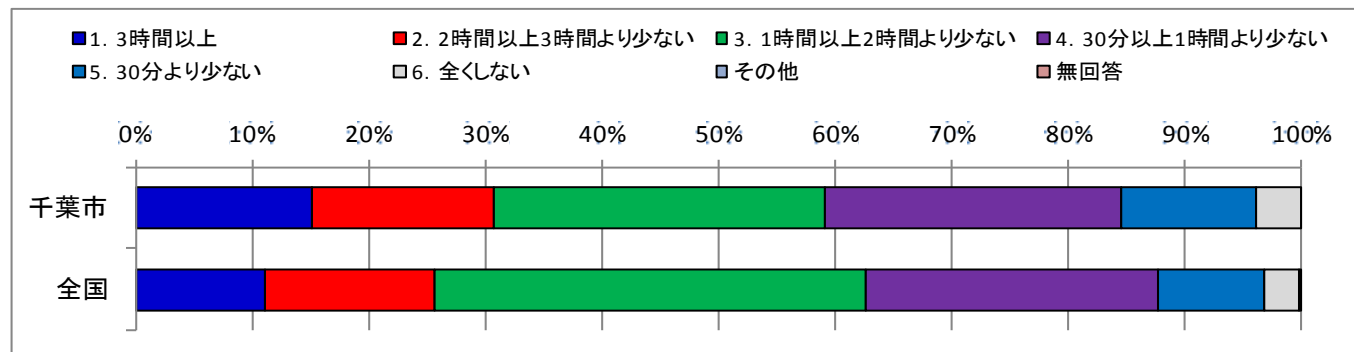
3 質問紙調査結果概要

【資料7】児童生徒質問紙調査より〔全国・千葉市〕＜平成27年度＞

ア 小学校

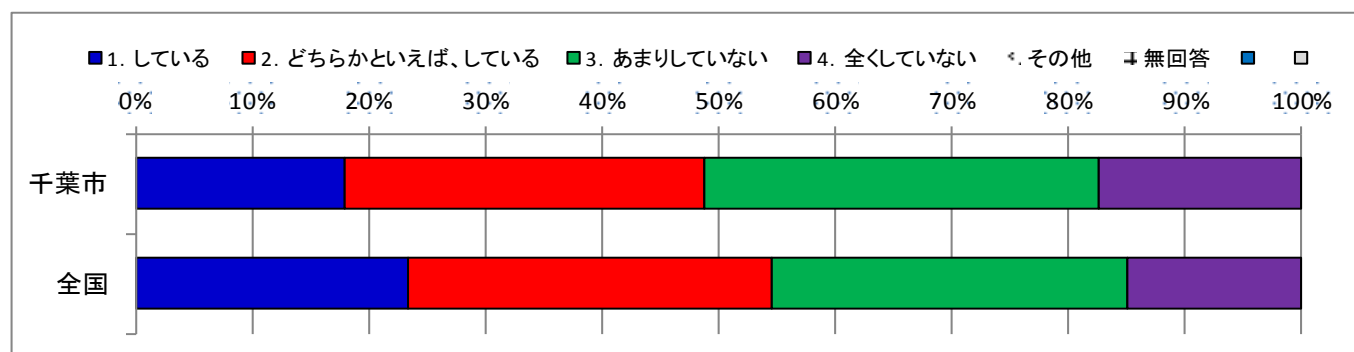
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)。

選択肢	1	2	3	4	5	6			その他	無回答
千葉市	15.2	15.6	28.4	25.3	11.7	3.8			0.0	0.0
全国	11.1	14.6	37.0	25.1	9.1	3.0			0.1	0.0



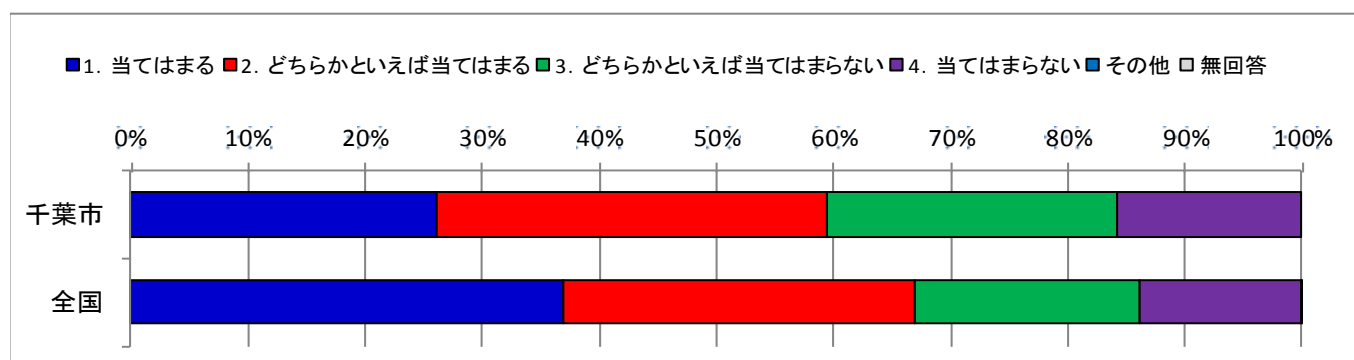
家で、学校の授業の復習をしていますか。

選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	18.0	30.7	33.8	17.4					0.0	0.0
全国	23.3	31.2	30.6	14.8					0.0	0.0



今住んでいる地域の行事に参加していますか。

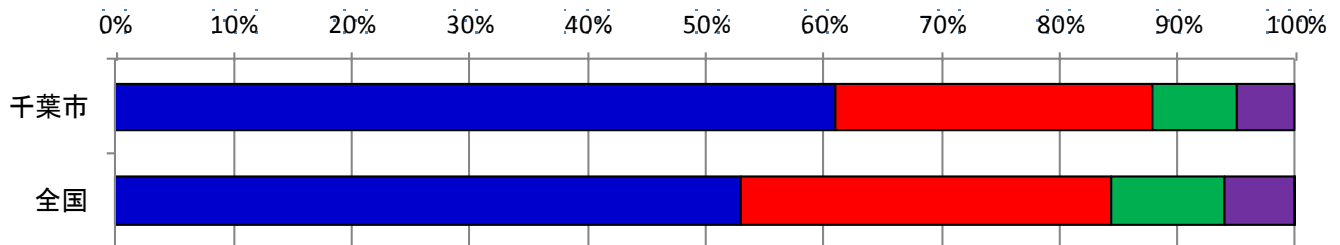
選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	26.0	33.3	24.7	15.8					0.0	0.0
全国	36.9	30.0	19.3	13.7					0.1	0.0



テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）。

選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	60.9	26.8	7.3	4.9					0.0	0.0
全国	52.9	31.4	9.6	6.0					0.0	0.1

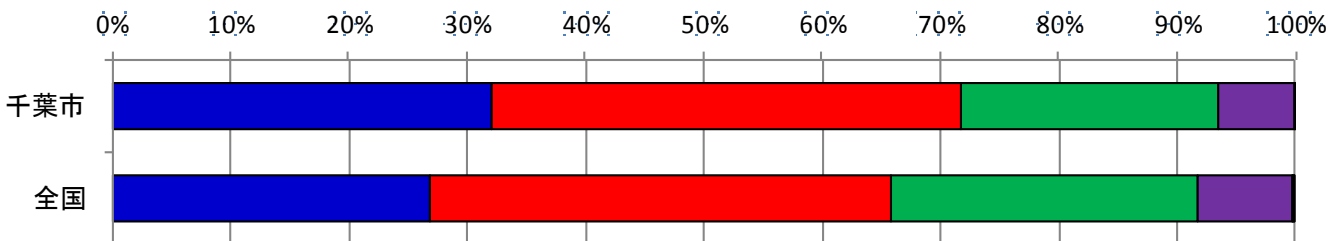
■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば当てはまる ■ 3. どちらかといえば当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ その他 □ 無回答



「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	32.0	39.7	21.8	6.4					0.0	0.1
全国	26.9	38.9	25.9	8.0					0.1	0.2

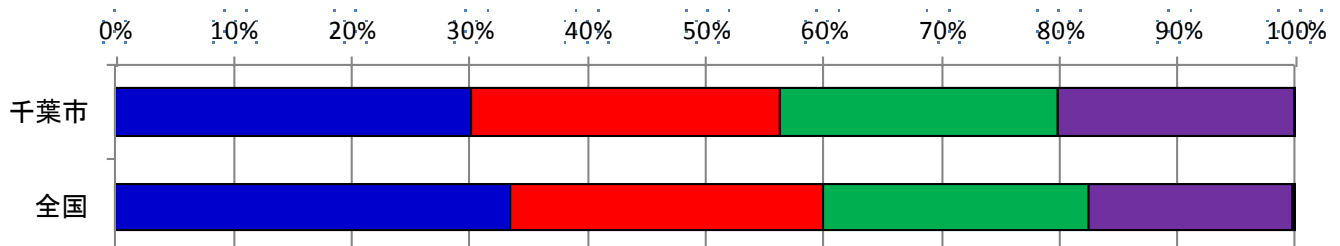
■ 1. している ■ 2. どちらかといえばしている ■ 3. あまりしていない ■ 4. 全くしていない ■ その他 □ 無回答



400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。

選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	30.1	26.2	23.5	20.1					0.0	0.1
全国	33.4	26.7	22.5	17.3					0.1	0.1

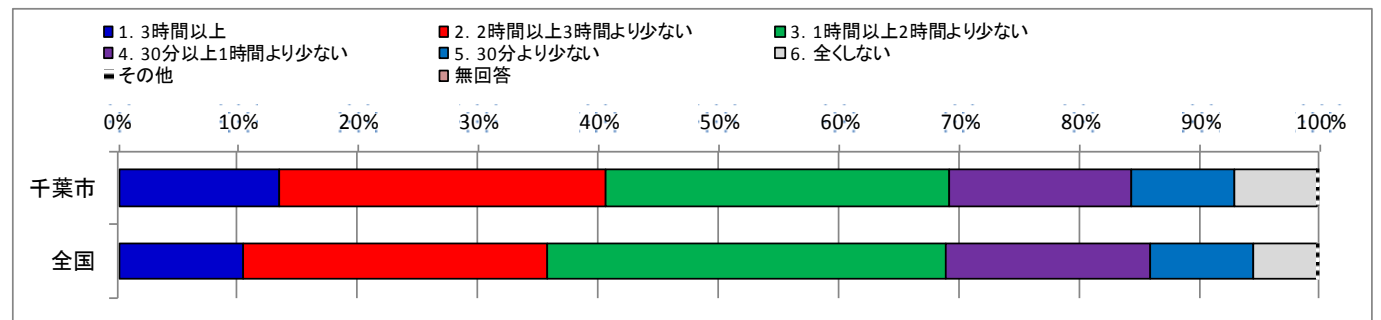
■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば当てはまる ■ 3. どちらかといえば当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ その他 □ 無回答



イ 中学校

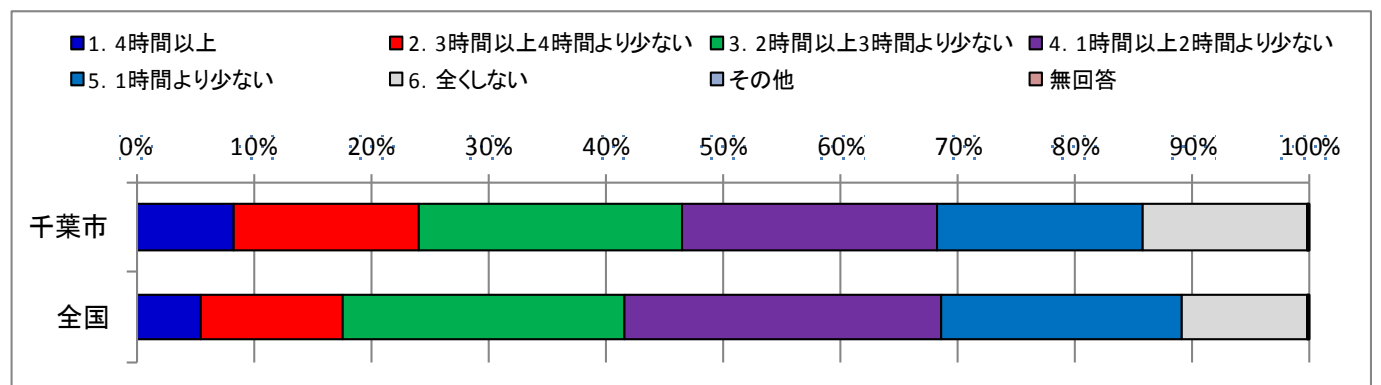
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)。

選択肢	1	2	3	4	5	6			その他	無回答
千葉市	13.4	27.1	28.7	15.1	8.6	6.9			0.0	0.1
全国	10.4	25.3	33.3	17.0	8.6	5.3			0.0	0.1



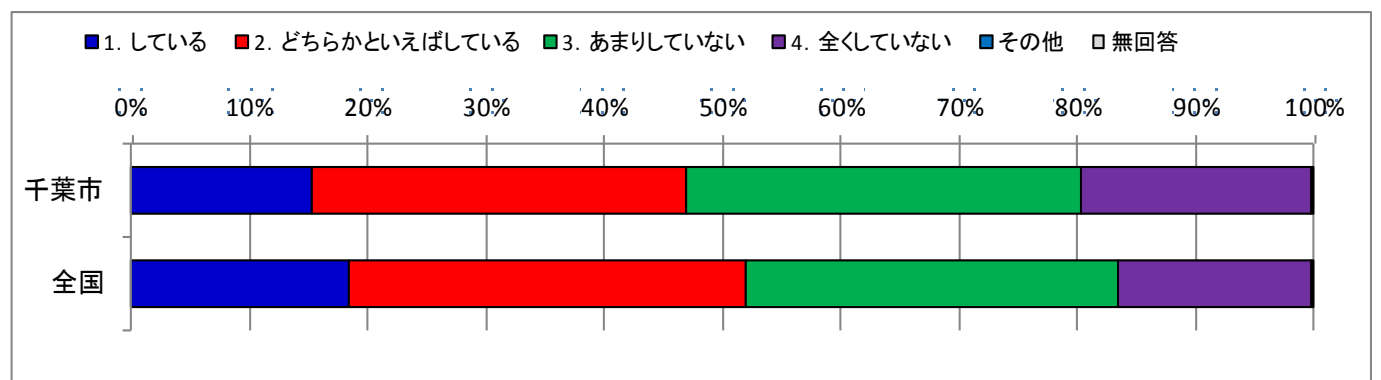
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

選択肢	1	2	3	4	5	6			その他	無回答
千葉市	8.4	15.7	22.4	21.8	17.6	14.0			0.1	0.1
全国	5.5	12.2	24.0	27.0	20.6	10.6			0.1	0.1



家で、学校の授業の復習をしていますか。

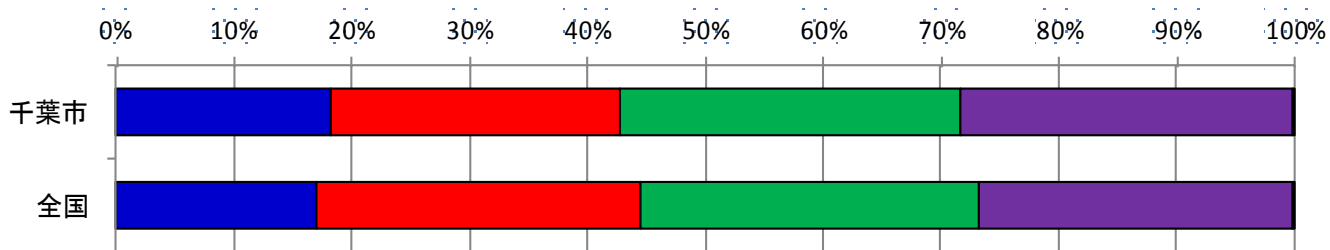
選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	15.3	31.7	33.3	19.6					0.0	0.1
全国	18.5	33.5	31.4	16.5					0.0	0.1



今住んでいる地域の行事に参加していますか。

選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	13.1	26.0	30.8	30.0					0.0	0.1
全国	17.5	27.3	28.5	26.6					0.0	0.1

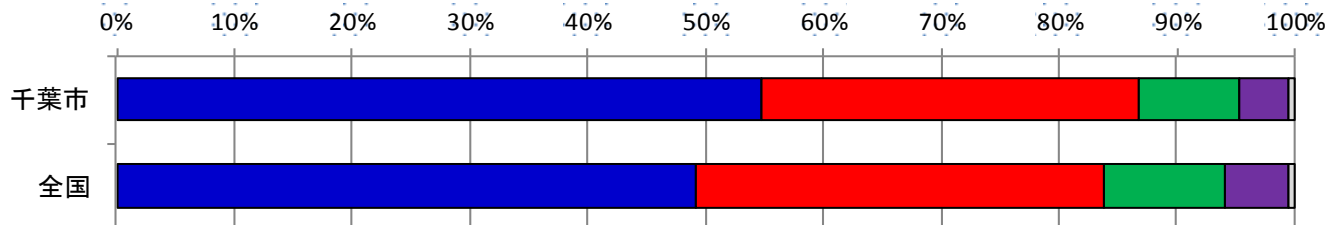
■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば当てはまる ■ 3. どちらかといえば当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ その他 □ 無回答



テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)。

選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	54.8	32.0	8.5	4.1					0.0	0.6
全国	49.1	34.8	10.2	5.3					0.0	0.6

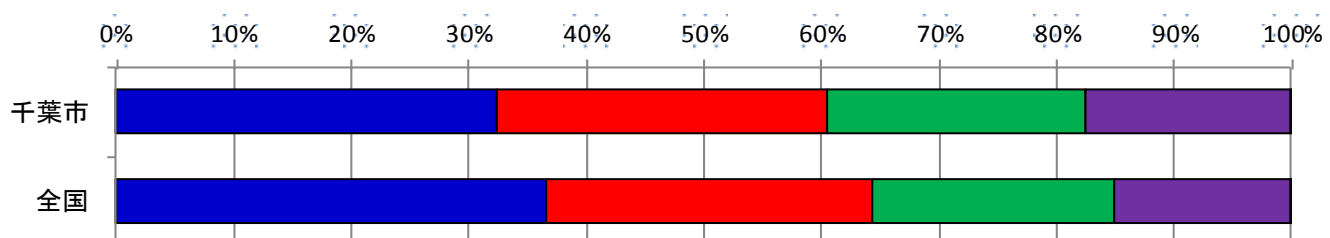
■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば当てはまる ■ 3. どちらかといえば当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ その他 □ 無回答



400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。

選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	32.4	28.0	21.9	17.5					0.0	0.1
全国	36.7	27.7	20.6	15.0					0.0	0.1

■ 1. そう思う ■ 2. どちらかといえばそう思う ■ 3. どちらかといえばそう思わない ■ 4. そう思わない ■ その他 □ 無回答



(1) 小学校

- 『総合的な学習の時間』に自分で課題を立てて情報を整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」について、「している、どちらかといえばしている」と回答した小6児童の割合は、全国平均より5.9ポイント高い。総合的な学習の時間が充実して行われていることが読み取れる。探究心をもって調べ伝えていくことの楽しさを感じられるよう、授業の一層の充実が求められる。
- ▲「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）1日あたり2時間以上勉強する」と回答した小6児童の割合は、全国より5.1ポイント高いが、「1時間以上勉強する」となると逆転し、全国平均より3.5ポイント低く、家庭学習の時間に二極化傾向がある。また、「家で学校の復習をしている」と回答した小6児童の割合は、全国より5.8ポイント低い。特に、家庭学習時間が1時間未満の児童に、自主的で充実した家庭学習の習慣が身に付くよう働きかける必要がある。

(2) 中学校

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）1日あたり2時間以上勉強している」、「土曜日や日曜日などの学校が休みの日に1日あたり3時間以上勉強をしている」と回答した中3生徒の割合は、全国平均より、それぞれ4.8ポイント、6.4ポイント高くなっており、学習に対する高い意識が、授業時間外の学習時間増にもつながり、平均正答率を高めている要因の一つになっていると考える。しかし、全くしない中3生徒の割合は、全国平均よりそれぞれ、1.6ポイント、3.4ポイント高くなっており、二極化の傾向が見られることは課題である。
- ▲「家で学校の復習をしている」と回答した中3生徒の割合は、全国より5.0ポイント低い。宿題の内容の見直しや、復習をする意義を理解させ、復習する習慣を付けさせていくことが、平均正答率のさらなる向上につながると考える。

(3) 小学校・中学校共通

- 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」について「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した小6児童の割合は全国平均より3.4ポイント、中3生徒の割合は全国平均より2.9ポイント高くなっており（特に「当てはまる」と回答している児童・生徒は、それぞれ8.0ポイント、5.7ポイント高い）、社会的関心が高いことが読み取れる。今後も、1分間スピーチや話し合い活動の題材等で取り上げていく等、児童の関心を促す工夫をしていくとよい。
- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しいと思いますか」について「そう思う、どちらかというそう思う」と回答した小6児童の割合は全国平均より3.8ポイント、中3生徒の割合は全国平均より4.0ポイント低い。国語をはじめ各教科等の学習で、言語活動を重視し、書くことに力を入れてきた成果が書くことへの抵抗感を減らすとともに、平均正答率を高めている要因の一つと考える。
- ▲「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、「している、どちらかといえばしている」と回答した小6児童の割合は全国平均より7.6ポイント、中3生徒の割合は、全国より5.7ポイント低く、これは昨年度と比べると、小6児童は2.3ポイント、中3生徒は1.2ポイント差が縮まっている。さらに家族ぐるみでの地域行事への参加を促したり、学習の中でも地域教材を取り入れたりする等、地域とのかかわりを更に強めていく必要がある。

4 今後の対応

- (1) 教育委員会においては、引き続き結果の詳細な分析を行い、学校における学習課題改善に資するデータと今後の学習指導改善の方向性やポイント等を各学校に示すことで、各学校の指導改善に向けた指導・助言を行い、教職員の指導力向上を支援していく。
- (2) 学校においては、調査結果を分析して授業改善に生かし、一人一人の児童生徒にとって「わかる授業」を一層進め、確かな学力の育成・定着を図る。
- (3) 家庭においては、規則正しい家庭学習の習慣を身に付ける等、児童生徒の望ましい生活習慣の育成に努めるとともに、地域社会への理解・かかわりを深められるようにする。